



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
12月号

No.112 JCHO星ヶ丘医療センター 医療安全管理室 医療安全管理者 田中雅美様



【星ヶ丘医療センター／大阪府枚方市】



【田中様】

■病院の紹介 (抜粋)

- 1953年 1月 健康保険星ヶ丘病院開院 (結核病院)
- 1969年 医療相談室開設
- 1970年 星ヶ丘厚生年金病院に移管
- 1972年 3月 現本館・リハ棟完成
- 1992年 福祉器機展示コーナー常設
- 2014年 4月 星ヶ丘医療センターに名称変更

■病院の理念

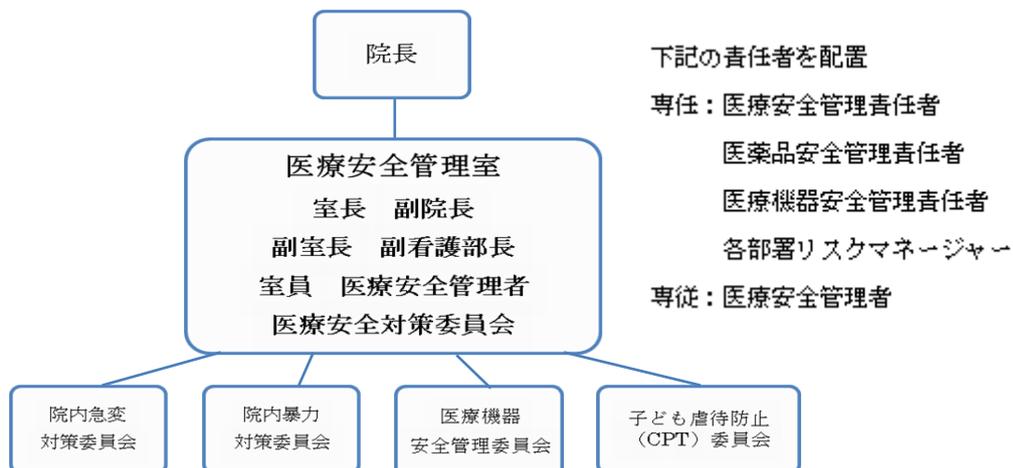
地域の皆様に心のこもった良質な医療を提供する。

【病床数 580 床】

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制を教えてください。

院長直轄部門で医療安全管理を統括する部署の「医療安全管理室」を設置しています。医療安全管理室は、医療事故、医療安全（院内急変、院内暴力、子供虐待）に対応しています。医療安全管理室には、医療安全管理責任者、医療安全管理者、及び、医薬品管理責任者、医療機器管理責任者を配置し、各部署、部門にはリスクマネージャーを配置しています。



田中様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

組織的に医療安全を推進するための各種委員会の開催や各部門のリスクマネージャーと連携し、以下の業務を行っています。

1. 医療事故発生時の初期対応、医療事故調査制度の対応、医療安全全般に係る対応、子ども虐待に関する対応業務
2. 院内、院外報告制度等を基盤とした医療安全のための活動
3. 医療安全対策委員会に関する活動
4. 医療安全に関する研修や教育の企画・実施
5. 医療安全のための部署間の調整、対策等の提案
6. 医療安全のための院内評価業務
7. 医療安全のための指針やマニュアル作成・改定
8. 医療事故発生時の対応
9. 医療安全に関する院外からの情報収集と対応

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

転倒・転落事故の原因には何があるとお考えですか？

転倒・転落事故の原因には、①患者さんの身体的機能低下や入院という環境変化 ②床の滑りやすさと履物の状況 ③病態に関する要因 ④安全対策用具の未使用 ⑤安全対策用具の選択や使用方法のエラー ⑥患者さん・ご家族と医療者間のコミュニケーション不足 などの様々な要因が複合的に重なり合って発生していると考えています。

近年の事故発生件数の推移を教えてください。

ヒヤリ・ハットを含む医療事故報告件数は年間約 5600 件あります。報告のうち「誤薬」報告が 1 番多く約 1900 件、次いで「転倒・転落」の報告が約 690 件です。そのうち転倒・転落に関するアクシデント件数は 10 件程度で、過去 3 年間で比較してみるとアクシデントは減少しています。

転倒は年齢に関係なく平坦な場所でも起こり得ますが、高齢者は身体機能の低下や薬剤の影響により転倒しやすいといわれています。高齢者は転倒により骨折など有害事象が生じやすく寝たきりや様々な合併症も考えられるため、継続的な課題として捉えて、転倒した場合でもアクシデント事象にならないことが重要だと考えています。そこで当院では環境整備や体幹保護用品を使用するなど、対象者に応じた予防対策を患者さん・ご家族、また院内の多職種で実行しています。

事故防止のための人的対策（専門チームで活動、ラウンドの工夫など）

また、貴院の特徴と思われる取り組みや対策があれば教えてください。

当院では、入院患者さん全員に「入院パンフレット」と一緒に、転倒・転落防止ワーキンググループで作成した「入院中転ばないために」と題した、転倒予防パンフレットを提供し、患者さんやご家族の方に転倒予防に関する注意喚起をしています。

また、転倒・転落予防の環境ラウンドや認知症ケアチームの介入、せん妄予防対策などを継続的に多職種で取り組むことや、毎月各部署のリスクマネージャーが患者さんの療養環境や病棟内のトイレ、洗面所などの環境チェックのラウンドを行って転倒・転落予防に努めています。

各部署の環境ラウンドの内容は、毎月の委員会で各部署の工夫や対策の情報を共有しており、病棟に在籍する認知症認定看護師が、せん妄患者の看護を実際にスタッフと実践し、安心安全な入院生活となるように支援しています。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

製品としては安全で安心して使用できるものを基本的な考えとして、バリアフリーの面で凹凸が少ないユニバーサルデザインの製品、行動心理学の観点を取り入れた人の特定行動を検知する製品、倫理的な観点から使用の際に目立たない工夫や配慮があるような製品が出ることを期待しています。

また、現場では特定の機能しか使用しないケースが圧倒的に多いので、多機能が備わっているものよりもシンプルな操作方法で取り扱いやすい商品があれば良いと思います。

6. 何か一言お願いいたします。

病院の PR やポリシーなどをお聞かせ下さい。

医療安全管理は、院内のさまざまな部署との連携が重要な部門ですので、部署間の調整を主体的に行っています。

例えば、院内コンビニではスリッパの販売を中止し「転倒予防学会推奨の履物」の販売に変更してもらったり、外来や守衛室と協力したりして建物外でも敷地内の全ての安全に取り組めるようにしています。

医療安全の仕事とは、「出来ていないところや事故を根掘り葉掘り突いていく」というイメージが中にはあるかもしれませんが、私の役割は患者さんも職員も安全に過ごせるようにすることであり、「安全のために何ができるか」を常に考えて、「行動力と対応力」をテーマとして活動しています。

チーム医療の安全を推進することは、私ひとりではできません。日頃から情報共有ができる人間関係づくりを心がけ、患者さんや職員に協力していただきながら今後も取り組んでいきたいです。